



## 創立10周年記念研修

教頭 峯島 浩

## 『パネルディスカッション』

1部「メロンが学校に来た時の思い」 2部「今後10年を見据えて」

日時：8月24日（月）14：00～16：00

場所：アートホール・セミナーホール

パネリスト：滝坂 信一（特定非営利活動法人日本治療的乗馬協会理事長）

西尾 高弘（JRA 日本中央競馬会 馬事部参与）

深野 聡（渋谷区ポニー公園管理責任者、学校評価懇話会委員）

宇田川 和久（山村学園短期大学教授、本校初代校長）

富田 靖（秩父高等学校事務長、本校初代事務長）

小松 文（本庄特別支援学校教諭、ポニー共育推進委員会初代委員長）

ポニー共育推進委員会の企画で上記の全校研修が行われました。事前に「メロン」についての教職員アンケートを行い3つの課題（1 教職員の負担感について、2 ポニーに関する知識の周知、3 メロンを使った授業の具体的な例や案の提示及び授業の促進）を踏まえて、パネルディスカッションを行いました。

「そもそもなぜポニーを飼うことになったのか」パネルディスカッションのスタートです。開校準備にあたった関係者から、「とにかく新校としての特色を出したかった。動物と触れ合うことで学校に来る楽しさを見つけてほしかった。命のある動物を愛おしく感じてほしかった。みんなで関わってコミュニケーションの力を強めてほしいという願いがあった。家庭では味わえない体験をしてほしかった。乗馬でゆらぎやマッサージなど身体的効果もねらっていた。馬との関りで勇気やチャレンジ精神をもって引馬では、相手を観察しながら力の入れ方やタイミングをつかんでほしかった」等たくさんの夢や希望があったことが伝わりました。不登校だった子がメロンの朝のえさやり係となり、役割を与えられたことでの責任感で登校できるようになったとのエピソードも聞かせてもらいました。また、地域にも愛される学校にとの思いもあったようですが、こちらは逆の反応になってしまい「臭い、におう」という苦情で当時の管理職は近所に謝罪とポニーを飼うメリットの説明に奔走したとのことでした。

開校当時の熱い思いを改めて全職員で再確認しました。心配したポニーの寿命ですが、だいたい25～30年だということです。メロンは、平成18年5月20日で現在14歳。4歳から本校で飼育されています。まだ、人生半ばということですね。これからのことに関して教職員の負担感については、児童生徒・保護者でもっと関わりたい人がいるのではないかと、遊具広場を休日に利用できないかなどアドバイスをいただきました。「地域・社会と共に歩む学校づくり」へ向けて、本校でのメロンの存在は、とても大きいと感じました。